

## 介護技能実習生の親睦会を実施しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



健育会グループの海外からの医療従事者の受け入れ取り組みは、2004年に私が経済同友会医療改革委員長を務めていた際にとりまとめた提言「医療先進国ニッポンを目指して」に海外からの医療従事者の積極的受け入れを明記したことに始まります。

将来、日本における医療介護人材の慢性的・構造的な不足に対応するには、海外から人材の受け入れを真剣に取り組むべきであるとの問題意識からでした。

### 2. 医療における安全の確保 -医療従事者の確保と患者保護規制の整備-

規制緩和の一方で、その弊害の発生を防ぎ、患者の安全を守るための体制づくりが必要になる。そのためには、十分な技能を持つ医療従事者の確保と、患者の権利保護の二点が柱となる。

#### (1) 医療の人的基盤の拡大・充実

##### ① 「メディカル・スクール」により医師増員と臨床教育充実を実現

現在、厚生労働省の定める「標準医師数」<sup>13</sup>を充たしている病院は多くの地域において70%台、北海道や東北地方では50%台に止まっている。現在問題となっている医師名義貸し<sup>14</sup>も、大きな要因の一つとして医師数の絶対的な不足が挙げられている。特に地方の医師不足は深刻だが、全国的にも医師の不足は明らかとなっている。

また、数だけでなく、知識偏重の医学部入試や臨床教育の不足など、頻発する医療事故の要因の一端が現在の医師教育にあるという声も強い。臨床研修がようやく義務化されたのは前進だが、むしろ、適性を自覚し、医師となる明確な職業使命感を持った人材が、研究ではなく、臨床に特化した密度の濃い教育を受けることができる体制へと、医師養成・教育のあり方を抜本的に転換する必要がある。

当面は既存の医学部の定員を増やし、臨床教育の更なる充実を図るべきであるが、将来的には、専門職大学院である「メディカル・スクール」を核とした医師養成システムを導入すべきである。

##### ② 海外からの医療従事者の受け入れ

医師と同様、看護師の不足も今後、更なる深刻化が予想される<sup>15</sup>。慢性的・構造的な医療従事者の不足に対応し、外国からの人材の受け入れを真剣に検討すべき時期である。現在、日本政府はフィリピンとの自由貿易協定交渉において、フィリピン人看護師の受け入れについて協議を進めているが、合意にむけた環境整備に前向きに取り組むべきである<sup>16</sup>。

もちろん、十分な日本語の習得や日本国内での再研修など、患者の安全を十分に確保すべきことは言うまでもない。

<sup>13</sup> 医療法により病院の患者数に応じた「標準医師数」が定められている。原則として医師数がその6割以下となった場合、診療報酬が減額される。  
<sup>14</sup> 文部科学省が2004年1月に発表した調査結果によれば、調査対象である79大学の64.5%にあたる61大学、延べ1161名に上る医師が名義貸しを行っていたことを認めている。  
<sup>15</sup> 1996年厚生省調査によれば、公的病院で看護師が充足しているのはおよそ73%、医療法人等で充足したのはおよそ43%に止まっている。  
<sup>16</sup> フィリピンは世界有数の労働力輸出国として知られている。看護師に対する評価は世界的に高く、イギリスやアメリカ、サウジアラビアなどの世界各国に毎年1万4000人を超えるフィリピン人看護師が渡っている。

まず、EPA制度の開始に先駆けて、2007年からフィリピンで看護師資格を有する留学生の受け入れを独自に開始しました。翌年EPA制度が始まってからは、フィリピンとインドネシアから介護福祉士候補者と看護師候補者あわせて14名を受け入れました。



この取り組みが評価されたこともあり、2013年には天皇皇后両陛下がケアポート板橋を行幸啓いただき、2015年には、国賓として来日されたフィリピンアキノ大統領の歓迎晩さん会に私が招待されました。



2014年からは、中国人看護師プロジェクトを日本語学校と共同で開始しました。日本で日本語と看護師国家試験の勉強を行いながら看護師国家資格を取得し、健育会グループで働くというプロジェクトです。今まで31名の方が看護師国家資格に合格し、現在も19名の方が健育会グループで働いています。



2016年には外国人技能実習生の対象職種に「介護」が追加され、介護施設や病院で外国人の方が働くことが可能になりました。健育会グループでは、これに先立ち2015年からミャンマーとベトナムを訪問して現地の状況を視察し準備をすすめました。2019年から介護技能実習生の受入を開始し、現在ベトナムから10名、ミャンマーから12名、合計22名の方が健育会グループで働いています。



介護技能実習生の受入には紆余曲折がありました。ミャンマーからの実習生は、ミャンマー国内の情勢不安と治安悪化により、入国が当初の予定から約3年遅れました。入国後も、昨年からは新型コロナウイルス感染に見舞われ、技能実習生のみなさんは、初めての土地で不自由な生活を送ることになり、職員との交流も限られた状況でした。

そこで、この度、新型コロナウイルス感染が落ち着いてきたこともあり、感染対策を十分行ったうえで、伊豆地域と東京地域に分かれて技能実習生のみなさんの親睦会を開催しました。お互いの勤務の様子や日常生活の様子を発表し、情報交換を行いました。短い限られた時間ではありましたが、参加した皆さんからは笑顔が見られ、同じ実習生という立場で気持ちを共有できてよかった、このような時間を作っていただき本当に感謝します、との声が聞かれました。



海外から来日したみなさんには、病院や介護施設で働くだけでなく、日本の文化や歴史にも触れてもらい、日本の良さも知って欲しいと考えています。そして、医療や介護を通して、日本と外国の橋渡し役としての役割も担うことができるようになればとてもうれしいことです。健育会グループでは、これからも海外からの人材受け入れに取り組んでまいります。

### <海外からの医療従事者受け入れの沿革>

2004年 経済同友会で取りまとめた提言「医療先進国ニッポンを目指して」に海外からの医療従事者の積極的受け入れを明記

2007年 日本語学校との共同プロジェクトでフィリピンの看護師資格保有の留学生2名を受け入れ。  
日本語学校に通いながら、ケアポート板橋で有償インターシップとして介護業務をおこなう

2008年 EPA介護福祉士候補生（インドネシア、フィリピン）受け入れ開始

2009年 EPA看護師候補生（フィリピン）受け入れ開始

2012年 EPA候補生 介護福祉士国家試験に合格（インドネシア/メイダ・ハンダジャニ）

2013年 EPA候補生 看護師国家資格に合格（フィリピン/メアリジョイス）

2013年 天皇后両陛下がケアポート板橋を行幸啓される

2014年 中国人看護師プロジェクト開始

2015年 国賓として来日したフィリピンアキノ大統領の歓迎晩さん会に招待される

2019年 介護技能実習生受け入れ開始  
ベトナムから10名、ミャンマーから12名の介護技能実習生を受け入れ。